

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の目標値	R元年度の実績値
岸本基金研究助成応募件数	件	250	196

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> 概ね一貫して増加してきた応募件数であったが、平成29年度の271件をピークに2年連続で減少しており、他の同様の研究助成も減少傾向にある。これは、全国的に博士課程への入学者が減少しており、ライフサイエンスの若手研究者が減っていることが大きな要因と考えられる。
------------------	--

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 応募論文の水准确保には一定数の応募件数が必要であるが、あまりに多すぎると審査員に負担がかかり、審査の正確性に影響を及ぼすおそれがある。実際、過去ピークの271件の応募時には、審査員から審査に時間がとられるとの意見があった。 今後とも、適正な応募件数が確保できるよう、引き続きHP、学会誌等への掲載を行っていくとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に対し、学内での周知、案内を依頼する。
----------------	--

〔2〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の目標値	R元年度の実績値
千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	740	730

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> R元年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、最後の2回を中止したことにより、フォーラムの参加者数は目標値を僅か10人下回った。 しかし、1回当たりの参加者数で見ると、実施済の9回のフォーラムの実績で、参加者数が81人となり、目標値の67人を大きく上回っている。
------------------	---

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも従来同様魅力あるテーマ選定に工夫を凝らし、参加者数の増を目指すとともに、フォーラム会員の増に向けホームページや他の広報媒体を活用し、引き続き会員募集のPRに努める。 今年度は新規のより若い会員を獲得するため、無料の体験フォーラムを開催する等、会員募集に注力したいと考えている。
----------------	---

■ 目標値未達成の要因について

〔3〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の目標値	R元年度の実績値
ホームページ総アクセス件数（月平均）	件	12,000	9,986

未達成の要因と分析

・平成29年度以降総ページアクセス件数は12,000件を下回り、3年連続で目標値を達成できていない。財団HPに掲載していた実用化支援事業のセミナー、交流会等の募集案内が平成30年度からなくなったことなど、HPの掲載コンテンツが減少したことが考えられる。

・R元年度は国際シンポジウム開催案内や他団体のメルマガへの掲載依頼を行っても、これにかかるアクセス件数の増は見られなかった。また、セミナー動画配信へのアクセス件数が前年度より減少した。

・また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い多数人を集客する財団行事を2月中旬以降すべて中止したことにより、年度末のアクセス件数が大きく減少したことも未達成の大きな要因である。

今後の改善方策

・セミナーの動画配信には講師との著作権の調整が不可欠であり、年々、動画配信を拒否することが多くなっており、動画コンテンツの魅力がなくなっていること、また、動画掲載にかかる費用や労力、閲覧ソフトの安全性などを考慮した結果、R2年度以降、新たなセミナーの動画配信については中止することとした。

・今後、動画配信に替わる魅力あるコンテンツの充実を図るとともに、時宜に合った最新情報の発信に努め、ホームページのより一層の充実に努める。

・さらに、引き続き近畿経産局、関西医薬品協会等公的団体に対し、当該HPのイベント情報ページにセミナー等の財団行事の掲載依頼を行うとともに、財団HPの無料リンク先の拡大に努め、メール会員の増を目指す。